

1 研究テーマ

児童の学習意欲が高まる小学校歴史学習をめざして

～ICTの活用に視点をあてて～

2 はじめに

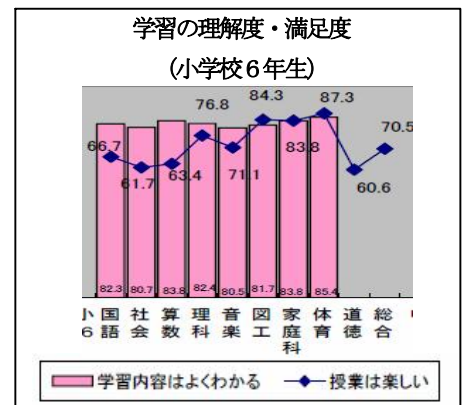
どんなに教師が熱心に学習指導を行っても、児童に学習しようとする意欲がなければ、学習指導の効果があがらない。学習指導の効果をあげるためには、何と云っても児童の学習意欲の高まりが大切になる。そこで、今までの実践の中で、児童の学習意欲を十分に高めることができなかつた社会科歴史学習において、「児童の学習意欲が高まる小学校歴史学習をめざして」と研究テーマを設定し、研究を進めた。

3 研究の内容

(1) 小学校社会科学習の現状

平成18年度鳥取県基礎学力調査から

小学校6年生社会科の理解度は80%を超えている。一方、「社会科の学習は楽しい」という質問に肯定的な意見、つまり、社会科に対する満足度は61.7%であり、他教科に比べると満足度が低いと言える。普段、教室で行われている社会科学習において、児童が興味を持つ学習が展開されていないことに原因があるのではないかと考える。



(2) 手立てにかかわる実態調査の分析と考察

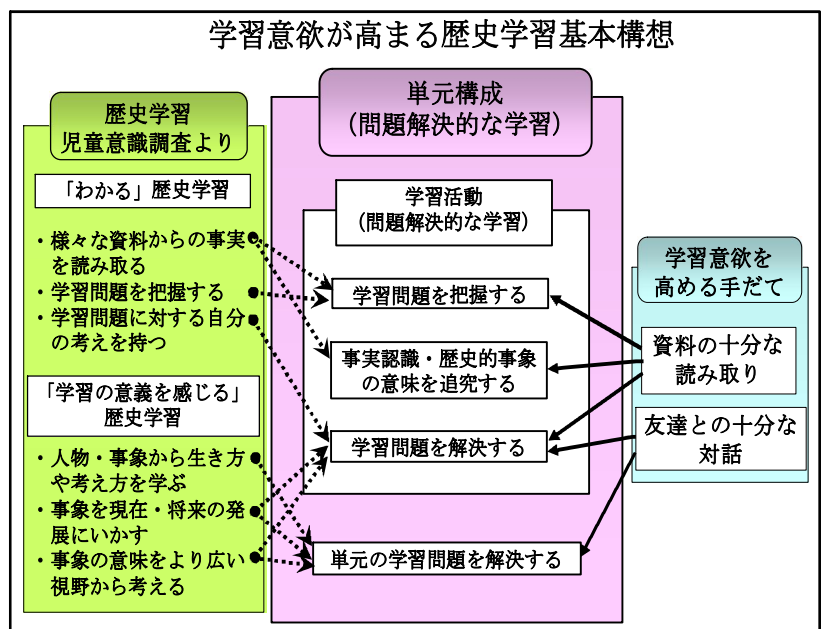
児童が満足する歴史学習とはどんな学習なのか、どんな歴史学習を求めているのかを把握することは、歴史学習の授業を設計していく上で大切な因子になる。そこで、歴史学習に対する児童の意識調査を実施した。

歴史学習意識調査から浮かぶ児童の姿と児童が求める歴史学習

- ◎歴史学習において「わかる」学習を望んでいる。 → 「わかる」学習を吟味する必要性がある。
- ◎歴史学習に意義を感じている児童は、歴史学習が好きである傾向が高い。だが、歴史を学習する意義を具体的に感じている児童は少ない。 → 歴史学習の意義を吟味する必要性がある。

(3) 学習意欲が高まる歴史学習基本構想

「資料から事実を読み取る」ことは、「学習問題を把握する」ことや「学習問題に対する自分の考えを持つ」ことにもつながってくる。したがって、「わかる歴史学習」を実現するには資料の十分な読み取りが大切になる。また、単元の学習問題を解決しようとした時、自分の考えがしっかりとまとまらず、友達から質問されても答えられないような状況で終わることもある。友達との十分な対話によって、自分の考えは具体性を増し、「学習の意義を感じる歴史学習」を実現させるのではないかと考える。



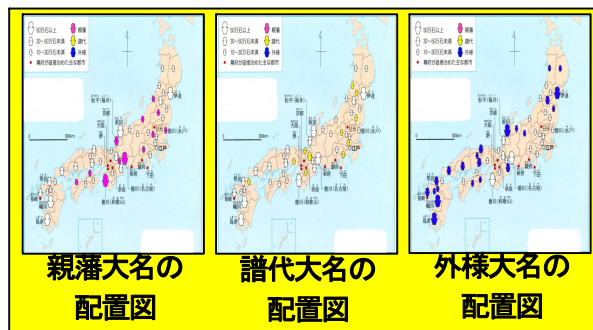
(4) 授業にICTを活用する意義

ICT (Information and Communication Technology) を活用することにより、今までの実践の問題点が解消される。そのため、「資料読み取り時」と「友達との対話時」にICTを活用することは、たいへん有効であり意義があると考えます。

## 4 検証授業の展開（ICT活用例）

### (1) 資料の加工

江戸時代の大名配置図から、親藩、譜代、外様大名それぞれの配置図を作成し拡大提示した。資料の中には児童にとって読み取りが難しいものもあるため、画像編集ソフトを使い加工した。児童には3枚の資料を順に提示していき、それぞれの配置の特徴をまとめていった。



### (2) HTML式言葉辞典

わからない言葉がでてきた場合、調べたい言葉をクリックすると、意味が書いてあるページが表示されるよう「HTML (HyperText Markup Language) 式言葉辞典」を作成した。1時間の学習活動の中で、児童がどの場面でも活用できるようにした。この言葉辞典を作成した理由は2つである。「資料をしっかりと読み取り、しっかりと考える時間を確保するため」と「歴史学習で使われる言葉の中には、国語辞典にのっていない歴史固有の言葉があるため」である。

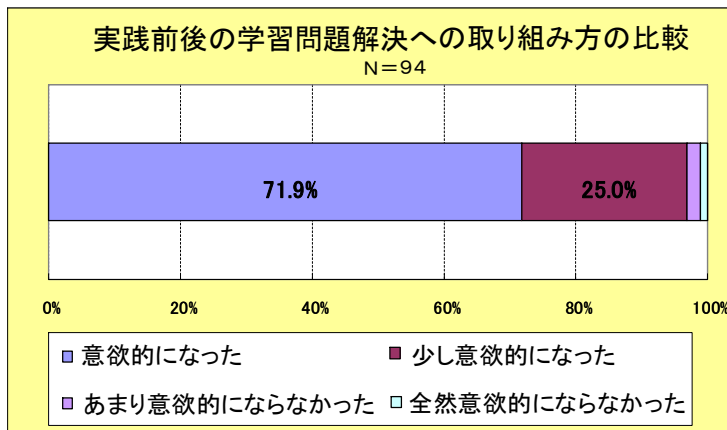
### (3) 電子掲示板

単元の学習問題解決時に電子掲示板を利用した。「徳川家光と江戸幕府」では、事象の意味を広い視野からとらえることができるよう、「キリスト教に対しての政策」「大名に対しての政策」「民衆に対しての政策」の3つのグループに分かれ、江戸幕府の諸政策について討論した。「世界に歩み出した日本」では、「戦争なし植民地化なしで、日本が世界に認められる方法」について討論した。「徳川家光と江戸幕府」の時のように自分の考えを深めるといよりも、オープンエンド的なテーマを設定し、歴史的な事象を批判するのではなく、歴史的な事象から学んでいくようにした。電子掲示板では双方向の通信が実現できるため、発表者に対する返答は前の友達の発表を待たずして返答することができるというメリットを利用し、対話数の増加をねらった。

## 5 研究のまとめ

### ○ICTを活用する効果

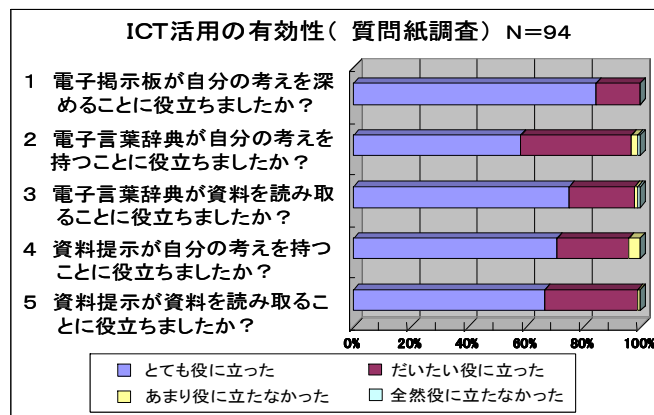
「資料読み取り時」では、プロジェクトで資料を拡大提示するだけで、資料の中にある情報の共有化を図ることができたこと。「友達との対話時」においては、対話する量を増やすことができたなど、ICTの活用を通して今までの実践の問題点を解消することができ、学習意欲が高まった児童が増えた。



## 6 今後の課題

### ○教師の授業力の向上

今回の研究でICTは、授業をする際、黒板やワークシートと同じように道具の一つにすぎないということを認識した。ただし、ただ利用すればよいというわけではない。児童にどんな力をつけたいのか、そして、どんな活動の時に、どれを使って、どう活用すれば一番効果的なのか、児童の実態を把握し、授業をしっかりと設計する教師の授業力も高めていく必要があると強く感じた。



## 7 おわりに

教育センターでの一年間は、私にとって意義ある研修であった。研究を進めていく過程において、教師としての様々な意識改革があったこと、そして、教師として初心に戻ることは大きな収穫であった。